

患者様・ご家族様の皆様へ

新生児脳拡散強調画像における

radial sampling 法併用 SPLICE シーケンスの検討へのご協力をお願い

京都第一赤十字病院放射線診断科では33週以前に生まれた早産児や重大な疾患を持った患児に対して入院中に頭部MRI検査を実施しております。

一般的にMRI検査は時間がかかり、検査中に患児が動いた場合、画像が乱れ診断に影響を及ぼすことがあります。特に新生児の場合は入眠下で検査を行うため、検査中に覚醒すると検査を中断あるいは再検査することもしばしばあります。

また、新生児重症仮死の主な原因である周産期の低酸素性虚血性脳症（hypoxic-ischemic encephalopathy;HIE）は出生時の脳への血流遮断により引き起こされる脳神経障害で、生後1週目のMRI検査の拡散強調画像（DWI）が重要で2週目以降のDWIのみでは画像診断が困難とされています。

研究の目的

本研究はradial sampling 法を併用したSPLICE シーケンスを拡散強調画像に用いることによって、従来法（EPI 法）よりも患者の動きなどで発生する画像への影響を抑え、より画像診断に役立つことが期待されます。

研究の方法

京都第一赤十字病院にて2023年8月1日から10月31日までに撮像された新生児頭部MRI検査において検査中に動く可能性があり通常のEPI 法に加え、radial sampling 法を併用したSPLICE シーケンスの拡散強調画像を追加撮像した患児が対象となります。すでに撮影した画像データを後方視的に解析し比較検討する観察研究で、新たなご協力やご負担はございません。

研究予定期間

倫理審査委員会承認日から2026年3月31日まで

個人情報保護上の配慮

個人情報を取り扱う際には、氏名や住所、ID 等、個人を特定できる記述を削除し、研究用の番号をつけて取り扱います。研究結果を公表する際にも、患者さんを特定できる情報を含まないようにします。

問い合わせ先

本研究への登録を希望されない際は、下記までご連絡ください。なお、申し出がなかった場合には参加をご了承いただいたものとさせていただきます。参加をご了承いただけない場合でも、患者様が診療上の不利益を被ることはありません。

〒605-0981

京都市東山区本町 15 丁目 749 番地

京都第一赤十字病院 放射線診断科部

電話 075-561-1121（代表）Fax 075-561-6308

本研究責任者 診療放射線技師 澤 悟史